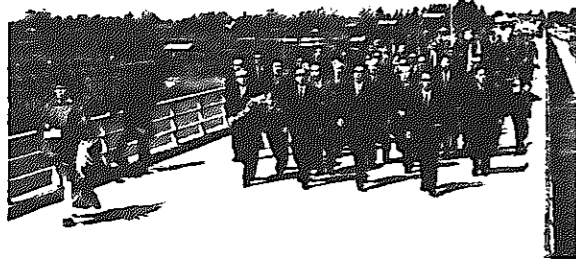


昔は県道にも市が出ていたが、道路が広げられて交通量も増え、40年代に現在の場所へ変わった。衣料品などの店を出すのは白根や加茂、月湯の人。お寺の前では地元の人たちが野菜を並べ、時期になると茨曾根からも桃を売りにやってくる



庄瀬橋の渡橋式（昭和42年3月25日）。左側は旧橋



語る人
平山五郎さん
(庄瀬下町80歳)

立ち並ぶ商店、市場でにぎやかだった

私がこのまちの住人になったのは、昭和五年の十二月でした。当時の下町は各種の商店がそろっていて、一と六の日に開かれる市場には近郷からの人も多く、にぎやかに栄えたものでした。信濃川には渡し舟があり、個人経営で年中無休でした。終戦後の

二十七年十月、信濃川に村民待望の橋が架かって交通も一変し、一時は新潟交通のバスが湯田上まで通っていたこともありました。三十九年の新潟大地震のため、あの木橋もあえなく破壊されたのですが、その後、りっぱな永久橋に生まれ変わり、現在ではたくさん車の両が通行しています。そんなことで下町の交通も変わってか、戦前より商業を営む人が減りました。昭和の初め、さまざまなお店にぎわっていたことも、今では懐かしい思い出になりました。

私の思い出 昔のわが街



茨曾根で飲酒運転追放運動

児童の標語でお父さんたちに呼びかける

茨曾根地区
飲酒運転追放
私の地区では車の運転者に通らしてはならない。私が出たときに車を運転して通らしてはならない。私の家は飲酒運転をしません。



茨曾根地区では、今「飲酒運転追放運動」が取り組まれています。この運動は、地区公民館、区長会、交通安全協会茨曾根支部、地区婦人会など、地区内のほとんどの団体が参加して行っているもので、正に「地域ぐるみの運動」として盛り上がりを見せています。同地区では三月に飲酒運転によ

る事故が発生。このままではいけない——と三月三十日、交通三悪追放運動のため各種団体を網羅した会合を開き、飲酒運転追放を重点に取り組みを決めました。具体的には、①飲酒運転追放のチラシ配布 ②部落ごとに区長を中心に話し合う ③交通事故発生状況を掲示する——ことを決め、地区青少年健全育成会（会長＝藤崎清区長会長）を中心に、小学校児童から一人一首づつの標語を募集し、それを比較的飲酒の機会が多い全部落の集会場へ張り出し、飲酒運転追放を、直接お父さんたちに呼びかけています。関根喜八郎公民館長は「茨曾根地区から、飲酒運転は出さない」を合い言葉に取り組んでいます。酒の出る会合には車を乗っていない。車に乗ってきたお客には酒は出さない。飲んだら車を置いていくなど、成果は確実に出ています。今後、茨曾根地区だけでなく市内全域にこの輪が広がればと考えています」と話していました。

お父さんが飲酒運転をした場合、今までは酒を出すべきかどうか迷うこともありました。地域の安全のために、飲酒運転の心配もありませんので、助かってます。飲んだ場合は、タクシーか自家用車で送ります。

飲んだ場合は送ります



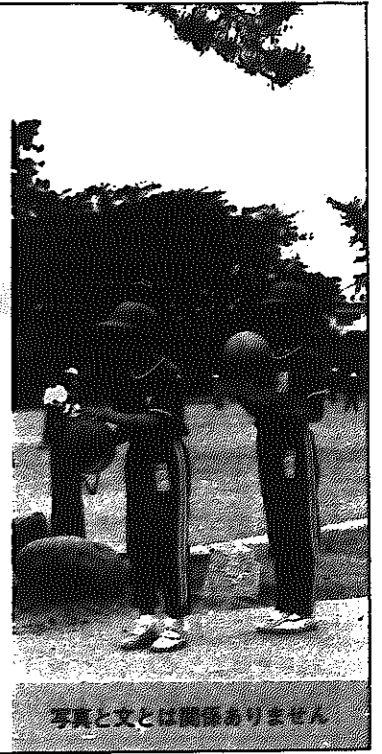
昭和四十三年、故福島定氏（当時、市教育委員会 社会教育主事）編集「しろねのことば」から

- ぞおしてみる 触ってみる。庄瀬地方
- そうの そうです。庄瀬・白根・白井・鷲巻地方
- そうらのう、そうられえ 全地域
- そうらのし、そうですな
- そうせば、そうすれば
- そうらすけえ、そうだから
- そうれば、火葬場
- たーけ、高い
- たーけえ 新飯田地方
- だいとび 馬乗り。白根・大郷地方
- だいそううま 根岸地方
- んまのり 新飯田地方
- だいろつば おおばこ。新飯田地方
- おんぼこ 根岸地方
- げえるつば 茨曾根・白井・大郷地方
- げーろつば 庄瀬・白井・白根・鷲巻地方
- たかく、持つ
- たかじょう 地下たび
- だがや いやです。新飯田・庄瀬・茨曾根地方
- だーがや 白井・大郷・鷲巻
- たきもん 燃料
- たた 母。新飯田・庄瀬・白根・白井・鷲巻地方
- おかか
- かか
- かかさ 茨曾根・白根・白井
- かきあ 白根・白井・大郷地方
- だつちもなえ つまらない
- だつちもねえ 庄瀬地方
- だてこく、きれいに着飾る
- だふら 雪の落とし穴。庄瀬地方
- だぼ ふろ。根岸地方
- たま お手玉。庄瀬地方
- おひとつ 白根・根岸地方
- ざつき 新飯田・庄瀬・白井・大郷・鷲巻地方
- つか 新飯田・茨曾根地方
- たまげた 驚いた
- たんまげた 庄瀬地方
- たまげる 驚く
- たんまげる 庄瀬地方
- たまさ 人形。根岸地方
- たまな キャベツ
- たらかす だます
- だらこつべい 散らかしている
- 状態。庄瀬地方
- だりこつべえ 新飯田地方



家族への思いやり

「先生、おじいちゃんだろ？」「転動早々の私をつかまえて、二年生の子が聞く。頭髪の白さを気にしながらも、若い気持ちでは負けまいと思っていたのに子供の目は鋭い。少々がっかりしたが、続けて「おれ、孫られ」と自分の立場を明かし、家のおじいちゃんのことを話し出した。核家族が増えつつあるときに、祖父母、父母、子供たちと、にぎやかなそして温かい家庭の様子が目につく。六年の修学旅行で土産を買うのは、大きな楽しみの一つである。三千円の範囲内で、だれに何をと、品定めは余念がない。酒屋に飛び込んで真っ先に手にしたのが、会津焼のぐい飲みであった。ついでに地酒の小瓶も……。自分の記念品よりも、家族への土産選びが先であった。「これ、じいちゃんと父ちゃんに」と、しっかりと抱え込んだ。きつと、土産の酒で祖父と父そして家族みんなで、話のはずむ楽しいひとときを過ごされたことと思う。運動会の準備で出入りが激しかった昇降口の掃除を始めた私に「千恵子も掃く」と、ほうきを持って手伝い始めた。働くことをいとわず、進んで仕事に取り組み。家でもきつと、手伝いに熱心なのだろう。思いやりのある豊かな心の育成は、地域や家庭での温かい心の交流にあずかることが大きい。（庄瀬小学校にお願いしました）



写真と文とは関係ありません